

令和7年度江東区ヤングケアラー実態調査報告書

【概要版】

■ 本調査の概要について

1. 調査対象

- ・区立小学校および義務教育学校（前期課程）に在籍する小学5年生の全児童
- ・区立中学校および義務教育学校（後期課程）に在籍する中学2年生(義務教育学校8年生)の全生徒

2. 調査期間

令和7年10月8日(水)から11月7日(金)

3. 調査方法

回答入力フォームのURLを学校を通して配付。区貸与の1人1台端末を活用しWeb上で回答

4. 回収状況

	対象者数	回収数	回収率
小学生	4,310人	3,880人	90.0%
中学生	2,781人	2,187人	78.6%

■ 調査結果について(抜粋)

1. ヤングケアラーが疑われる児童・生徒数について

家族の中にお世話をしたことがある人が「いる」と回答した小学生は17.6%(684人)、中学生11.2%(245人)であり、この中でヤングケアラーの疑いがある児童・生徒は83人(小学生61人、中学生22人)であった。

2. ヤングケアラーが疑われる児童・生徒の状況について

ヤングケアラーが疑われる児童・生徒83人のお世話の状況について、お世話の日数及び時間数(平日・土日)のうち、日数及び時間数どちらの要件も満たしている児童・生徒は12名であった。

お世話を必要としている家族は年齢に関わらず「きょうだい」が多く、お世話の内容は、小学生では「兄弟姉妹のお世話や送り迎え」や「入浴やトイレのお世話」、中学生では「家事」が最も多かった。

お世話のためにやりたくてもできないことは、年齢に関わらず「自分の時間がとれない」「宿題をする時間や勉強をする時間がとれない」が多かった。

学校や大人にしてほしいこととしては、「自由に使える時間がほしい」「自分のことについて話を聞いてほしい」「勉強を教えてほしい」といった回答が多かった。

3. 調査結果をうけた対応と活用について

氏名等を回答した児童・生徒68人(小学生57人、中学生11人)に対しては、区の心理職が面談等により事実確認を行い、必要に応じて適切な支援につなげていく。

また、氏名等の回答がなかった児童・生徒についても、支援を必要とするタイミングで適切に支援が届けられるよう、児童・生徒に対する相談窓口の周知や相談しやすい環境の整備、SOSの出し方教育等を学校と連携して進めていくとともに、教職員や地域の関係機関に向けた周知媒体及び研修機会の一層の充実を図る。